

グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 高野地区の新遺跡

02 マンホール上で産卵

Vol.328

2024/10/01



八重柏誠《ハーベストムーン》

Photo 今月の1枚

中秋の名月の翌日、博物館の前庭ではオレンジ色に輝く満月が昇ってきていました。アメリカでは、農産物を収穫する秋にちなんで、9月の満月をハーベストムーン（収穫の月）と呼んでいるそうです。博物館前に広がる畑では小麦の収穫が終わり、玉ねぎの収穫が進んでいるところです。暑かった夏も終わり、短い秋が始まりました。（八重柏誠）



01 Green Column グリーンコラム

高野地区の 新遺跡

写真・文／八重柏誠

先日、北見市へと繋がる高規格道路の工事現場で、遺跡の有無を調べる調査を行いました。その結果、道路用地となる斜面から、少量の黒曜石製の石器が見つかりました。黒曜石が見つかった道路用地のすぐ北側は、丘が舌のように張り出している舌状台地になっていて、台地の平坦面からも石器が見つかりました。これらのことから、台地上の平坦面に遺跡の主体部があると考えられるでしょう。今回の調査結果から、舌状台地上の平坦面を新発見の遺跡として、高野 9 遺跡と名付けられました。

高野 9 遺跡は北見市との境界近くに立地する遺跡です。美幌町と北見市の境界にあたる高野地区や豊岡地区は、標高 100 ～ 200m ほどの丘陵地帯となっており、高野 9 遺跡は北見市と美幌町を分ける分水嶺と呼べるような場所に立地しています。同じような立地

の遺跡として、高野遺跡、高野 2 遺跡、高野 6 遺跡、高野 8 遺跡、豊岡 2 遺跡、豊岡 3 遺跡、豊岡 4 遺跡、豊岡 7 遺跡、豊岡 10 遺跡があります。これらの遺跡の年代は、主に縄文時代中期頃のものと考えられています。

高野 9 遺跡を含むこれらの遺跡の立地は、西に下れば常呂川、東に下れば網走川方面に出ることができる場所にあります。黒曜石の原産地である置戸町に源流部がある常呂川では、河原で黒曜石を採集することができます。先史時代の人々にとって、黒曜石は生活必需品とも呼べるものです。遺跡を残した人々は、丘陵地帯を拠点に、常呂川の河原で黒曜石を集めつつ、石器作りや狩猟活動をしていたのでしょうか。当時の人々は、どのような生活をしていたのか、気になるところです。

マンホール上で 産卵

写真・文／鬼丸和幸



朝、出勤のため車を運転していた時のことです。信号機が赤になり、車を一時停止させていた際、ふとフロントガラス越しに目の前を見ていると、コンクリート道路上に設置されたマンホール上で、トンボがホバリングしながら、しきりに、お腹をマンホールのふたに打ちつけて産卵していました。「え～こんな場所で!？」と、びっくりでした。

秋になり、水辺を訪れると、いわゆる“赤とんぼ”が盛んに産卵している光景を、目にすることが増えてきました。

トンボの産卵は、少し変わっています。オスがお尻の先にある突起を使い、メスの首または頭をはさみこんで、“つながり状態”となり、メスを自分のものとしします。その後、オスのお腹基部にある交尾器と、メスのお腹先端にある交尾器がつながり、交尾完了となります。

トンボの産卵には、大きく2つのタイプがあります。1つ目は、植物の組織の中に産卵するタイプで、丈夫な産卵管を持つ種類のトンボ（イトトンボの仲間や、ヤンマの仲間など）は、植物の茎や葉、あるいは泥の中に卵を産みつけます。2つ目は、水面や地上に卵を産み落とすタイプで、シオカラトンボやアキアカネ、エゾトンボの仲間などは、お尻の先を水面などに打ちつけるようにして産卵したり、空中からバラバラ卵を産み落としたりします。

マンホール上で産卵していたトンボは、おそらく黒茶色っぽい色をしたマンホールのふたを、泥あるいは濁った水面と勘違いして、産卵していたのでしょう。残念ながら、卵がふ化する可能性は、限りなくないのですが…

Exhibition 展示

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

10月20日（日）まで

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」

10月8日（火）まで

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

博物館講座（自然編） 「古梅の森でコケ観察」

10/5（土） 9:30～13:00

町内古梅地区（集合解散はマナビティーセンター）・100円

講師／内田暁友氏（美幌博物館学芸協力員）

対象／中学生以上（小学生以下は保護者同伴）

申込み／美幌博物館に電話で申込み（-10/2）。定員8名で締切。

美幌博物館開館記念日 無料開館

10/6（日）

美幌博物館・無料

プチ工房「ちりめん細工」

10/11（金）、12（土） 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館1階 講座室・400円

講師／鬼丸和幸（美幌博物館）

対象／どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

博物館講座（自然編）

「戦えアマゾネス！ハチやアリの世界を見てみよう」

10/19（土） 10:00～11:30

美幌博物館2階 視聴覚室・無料

講師／東 典子氏（昆虫研究家【地球環境博士】）

対象／中学生以上（小学生以下は保護者同伴）

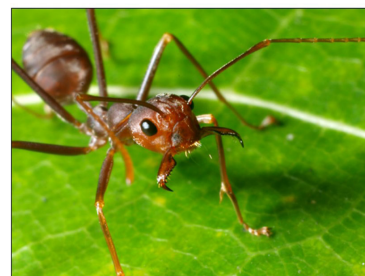
申込み／不要。直接会場へお越しください。

臨時休館のお知らせ

10/29（火）は、博物館照明修繕工事に伴い臨時休館します。ご不便をおかけしますがよろしくお願いいたします。

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



ツムギアリ

海野和男氏撮影

Tweet つぶやき

体調すぐれない、予期せぬトラブルが続く…厄のせい？…8月下旬に美幌神社で後厄祓いしてもらいました。お守り・絵馬等いただき、これで安心と思っていたら、帰宅後、廊下で転んでしまい足中指を痛めてしまいました。お祓いの時期が遅すぎた？のかもです。（鬼丸和幸）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】八重柏誠

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

